専門学校・大学と尚学院公務員法律大学校を比較してみよう！

専門学校	大学	比較	尚学院公務員法律大学校（大学×専門学校）
専門知識を取得する 専門科目や実習がカリキュラムの７割以上を占める、実践的な内容。	教養を身に付ける 教養を高めるため、学問の研究が授業の中心。実践的な授業は少ない。	目的	教養をベースに専門性を磨く １・２年は教養・専門科目の基礎を学び、３年次より、本格的に専門分野を学ぶ。
専門士 2年 やりたいことを短期間で目指せるが、途中からの進路変更が難しい。 4年 卒業後は専門士（2年）高度専門士（4年）を取得	学士 4年 4年間という時間を自分で考えて使えるため、人生の幅を広げることができる。卒業後は学士を取得。	学位	学士・高度専門士 4年 4年間かけてじっくりと専門性を高め、自分の目標にチャレンジできる。学士と高度専門士の両方を取得することも可能！
学校主導型 時間割は校則で決められているため、高校に通う感覚に近い。	自己管理型 時間割を自分で選択でき、自由度が高い。	学び方	選択決定型 1・2年次は時間割が決まっているが、選んだコースにより３年次からは専門科目を決めていく。
インターンシップなどの実習がカリキュラムに組まれている。	実習先やインターンシップは自分で探して応募する。	実習 インターンシップ	インターンシップなど実習先は学校紹介・自分で応募、どちらも可能。
専門分野の求人があり、大学に比べるとサポートは手厚い。	自主性が求められ、主体的に行う必要がある。	就職活動	学校斡旋の求人や公務員試験対策などサポート体制が充実している。
将来の夢が決まっている 技術を身につけて仕事をしたい！	総合的な知識を勉強したい！ 大学院で高度な研究がしたい！	向いている人	実践的な授業を受けたい！ 難関資格を取得したい！ 様々な企業を受験したい！
学校によって教育方針が異なる。面倒見のいい学校の見極めが重要	大学の格付けがあり、就職活動時にはその視点でも評価される。	その他	少人数のクラス編成なので、学生へのサポートや進路指導が手厚い。

尚学院公務員法律大学校の４年間

入学

1年
教養科目履修
専門科目履修

公務研究、官庁訪問・説明会や地域ボランティア

2年
各種実習
インターンシップ

3年
資格取得対策

就職活動から公務員試験まで尚学院公務員法律大学校がしっかりサポート!

4年
公務員試験
入学試験

卒業

高度専門士 学士 を取得

政次郎理事長

SPuLA
学校法人 尚学院
Shogakuin Public servant・Law Academy
尚学院公務員法律大学校
098-918-3516（直通）
080-3947-3516（学校携帯）
info.spula@spula.ac.jp SPuLA 検索
〒900-0012 沖縄県那覇市泊 2-16-3 3F 4F

2022 INFORMATION
スプラこの１年

この春の卒業生の実績

中央大学法学部（通信教育課程）卒業

令和４年
宜野湾市
上級行政職
合格
佐喜眞さん
（昭和薬科大学附属高校卒）

2022年度
中央大学法学部
通信教育部長賞
受賞
金城さん
（向陽高校卒）

海洋研修（7月：恩納村海浜公園ナビービーチ）

近年の地球温暖化や赤土流出でサンゴの白化現象による死滅、オニヒトデ大発生での食害等でサンゴが激減し危機にさらされています。
サンゴ再生シュノーケルプログラムを通して自然環境の大切さを学び、考え、実行する心を育む体験学習です。

課題解決型学習を実施

スプラの所在地である那覇市泊地域に目を向け、地域の課題を調べ把握することを通じて、地域への眼差しを持った未来を切り拓くことのできる人材を育成することを目的に課題解決型学習を導入しています。地域の調べ方を学び、話し合いの基礎力を身に付けます。

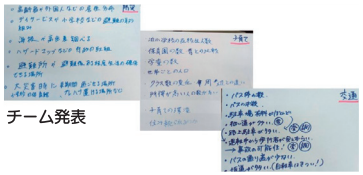
テーマ「那覇市泊小学校区の地域の資源と課題を調べよう」

（2022年11月7日（月）・8日（日）実施）

講座① オリエンテーション／チームづくり
▼
講座② 地域の調べ方
▼
講座③ 話し合いのスキル
▼
地域インタビューフィールドワーク
▼
中間発表
▼
発　表

全員で円になり自己紹介

校区マップから課題と資源の確認


チーム発表

Check
文部科学省
専修学校教育ページ
「専修学校 #知る専」に
本校の取組が紹介されました。

授業の魅力やおもしろさ

① 通常の授業、つまり教員や教科書、オンライン上から情報を受動的に受け取る、のではなく情報を自ら探しに行く、調査し人に聞き、自分でまとめることにより、情報を「足でかせぐ」やり方を学ぶことができる。
② 地域課題を知り、その解決法を（仮に不十分であったとしても）探るという経験が、将来、自らが住む地域の課題解決を考える材料になる。（学生目線から、地域の「生活者」目線へ）
③ 学生が調査結果を発表することは、今後の通常授業のみならず、将来の採用試験等での面接・発表の生きた訓練となる。